

# CONTENTS

## 第1章 ファイナンスのためのミクロ経済

[ 1 ] ゲームの理論 .....	2
1 . ナッシュ均衡 2	
2 . コミットメントの戦略 9	
3 . 複占市場 10	
4 . クールノー・モデル 10	
5 . 競争と協調 18	
6 . オークション理論 20	
[ 2 ] 情報の経済学 .....	28
1 . 情報の非対称性とモラルハザード 28	
2 . エージェンシー問題とその回避 29	
3 . 逆選択の問題と回避 32	
4 . シグナリングとスクリーニング 33	

## 第2章 国民経済計算

[ 1 ] 国民経済の範囲と経済主体 .....	36
1 . 国民経済の範囲 36	
2 . 経済主体 36	
[ 2 ] 国民経済計算 .....	38
1 . 国民経済計算体系 38	
2 . 国民所得概念の3つの区別 39	
[ 3 ] 国民所得勘定 .....	42
1 . 国民所得勘定 42	
2 . 所得・支出勘定 45	
3 . 貯蓄・投資バランスと資金過不足 47	
[ 4 ] 国民貸借対照表 .....	58

1 . 期末貸借対照表勘定 58	
2 . 純固定資産額と粗固定資産額 59	
3 . 調整勘定とキャピタル・ゲイン（ロス） 60	
[ 5 ] GDP成長率と寄与度 .....	62
1 . 経済成長率 62	
2 . GDPデフレーター 62	
3 . 物価指数 64	
4 . 連鎖方式の導入 65	
5 . 四半期成長率と年率換算 67	
6 . GDPの寄与率と寄与度 68	

## 第3章 財貨市場とIS曲線

[ 1 ] マクロ経済のAD・AS分析 .....	72
[ 2 ] GDP水準の決定 .....	80
1 . 均衡GDP水準と経済モデル 80	
2 . 単純な経済モデル 81	
3 . インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ 84	
4 . 政府活動を含む経済モデル 85	
5 . ビルト・イン・スタビライザー 87	
6 . オープン・マクロ経済モデル 88	
7 . 国内均衡と国際均衡 92	
[ 3 ] IS曲線 .....	94
1 . 財貨市場とIS曲線 94	
2 . IS曲線のシフトと傾き 95	
[ 4 ] 消費関数 .....	96
1 . 異時点間の消費決定 96	
2 . フィッシャーの2期間モデル 98	
3 . ライフサイクル仮説 103	

- 4. 恒常所得仮説 103
- 5. 相対所得仮説 104
- 6. 中立命題仮説 104
- 7. 公債発行の問題点 106

- [ 5 ] 投資関数 ..... 108
  - 1. 投資の限界効率 108
  - 2. 資本ストック調整原理 109
  - 3. トービンのq理論 110
  - 4. 資本ストック調整 111

## 第4章 貨幣市場とLM曲線

- [ 1 ] 貨幣需要 ..... 116
  - 1. ケインズの流動性選好説 116
  - 2. マーシャルのkと貨幣需要 120
  - 3. 貨幣の過剰供給とデフレ 122
- [ 2 ] 貨幣供給 ..... 124
  - 1. マネー・サプライの指標 124
  - 2. ベースマネーとマネーサプライ 124
  - 3. 信用創造 125
  - 4. 日銀の貸借対照表と貨幣乗数 127
- [ 3 ] LM曲線 ..... 130
  - 1. 貨幣市場とLM曲線 130
  - 2. LM曲線のシフトと傾き 130

## 第5章 IS LM分析

- [ 1 ] 総需要政策 ..... 134
  - 1. 総需要管理政策 134
  - 2. 財政政策の効果 134
  - 3. 金融政策の効果 136

- 4. 資産効果 137
- 5. 財政政策・金融政策の特殊ケース 139

- [ 2 ] インフレ期待とフィッシャー方程式 ..... 142
  - 1. フィッシャー効果 142
  - 2. インフレ期待の「IS-LM分析」への導入 143

## 第6章 AD AS分析

- [ 1 ] AD曲線の導出 ..... 146
  - 1. AD曲線の導出 146
- [ 2 ] AS曲線の導出 ..... 148
  - 1. 古典派の労働市場 148
  - 2. ケインズ・モデルの労働市場とAS曲線 152
- [ 3 ] AD-ASの均衡 ..... 154
  - 1. 実質GDPと物価水準の同時決定 154
  - 2. AD曲線とAS曲線のシフト 154
- [ 4 ] インフレーション ..... 156
  - 1. インフレーション 156
  - 2. マネタリストのインフレーション 156
  - 3. 需要サイドのインフレーション 157
  - 4. 供給サイドのインフレーション 158
  - 5. ハイパーインフレーション 158
  - 6. スタグフレーション 159
  - 7. インフレと所得配分 160
- [ 5 ] フィリップス曲線 ..... 162
  - 1. フィリップス曲線 162
  - 2. 合理的期待形成仮説のモデル 166
- [ 6 ] 失業と物価 ..... 168
  - 1. 失業の類型 168

- 2. UV曲線 168
- 3. オークンの法則 172
- 4. デフレスパイラル 173
- 5. ディスインフレ 174
- 6. 貨幣要因によるデフレ 176

## 第7章 景気見通しと経済成長

[ 1 ] 経済動向予測 .....	180
1. 経済予測の分類	180
2. 経済予測におけるポイント	182
3. 景気循環とは	184
4. 景気動向指数	186
5. 日本の景気循環の姿	192
6. 在庫循環と景気変動の分析	193
7. 設備投資の循環	196
[ 2 ] 金利予測 .....	198
1. 金利の変動メカニズム	198
2. 金利予測の手法	200
3. ベース・マネー水準の評価	202
4. 量的緩和政策	203
5. インフレ・ターゲティング	203
[ 3 ] 経済成長理論 .....	204
1. 自然成長率	204
2. 生産関数と経済成長会計	205

## 第8章 日本経済の分析・動向

[ 1 ] わが国の国民経済の動向 .....	210
1. 近年のわが国の国民経済の動向	210

2. 日本経済の景気回復への展望	211
3. 回復を続ける日本経済	216
4. 回復が長期化する日本経済	219
5. 危機の克服と持続的回復への展望	221
[ 2 ] 家計部門の消費行動 .....	224
1. 家計部門の消費動向	224
2. 今回の景気後退の家計部門への波及	225
[ 3 ] 企業部門の投資行動 .....	226
1. 改革成果の企業部門	226
2. 企業部門の体質改善と増加する設備投資	229
3. 今回の景気後退の企業部門の調整	231
[ 4 ] わが国の財政 .....	232
1. 財政の機能と仕組み	232
2. 公的年金制度	234
3. 国民負担率とプライマリー・バランス	235
4. 財政赤字の問題点	237
5. 国債発行残高の増加の問題点	239
6. 平成21年度の一般会計歳入・歳出の内訳	240
[ 5 ] 日本の雇用市場 .....	242
1. 日本の雇用市場	242
2. 労働分配率	244

## 第9章 金融経済の分析

[ 1 ] 金融取引の仕組 .....	248
1. 金融取引の意味と本質	248
2. 金融機関の役割と金融取引の種類	248
3. 市場型システムと銀行型システム	250
[ 2 ] 資金循環構造 .....	252

1. 資金循環勘定	252
2. 資金循環表の構成	255
3. 金融取引表（マネーフロー表）の具体的な見方	256
4. わが国の資金循環構造	258
[ 3 ] わが国の金融市場	260
1. 金融市場の種類	260
2. 短期金融市場	260
[ 4 ] 金融システムの安定性	266
1. 金融システムの安定性	266
2. BIS規制	266
[ 5 ] 金融政策の決定	268
1. 日本銀行の目的と機能	268
2. 日本銀行の組織	268
3. 金融政策の意思決定	269
4. 金融政策のフレーム・ワーク	270
5. 日銀の金融政策と金融調節	271
6. 日本銀行B/Sと金融調節	272
7. マネー・サプライのコントロール方法	276
8. オペレーションの概要	279
9. 金融政策の波及経路	280
10. 補完当座預金制度の概要	281
[ 6 ] 近年の日銀金融政策	282
1. デフレと金融政策の動向	282
2. 量的緩和政策の評価	284
3. 2008年秋以降の金融政策	288

## 第10章 国際収支

[ 1 ] 国際収支表	292
-------------	-----

1. 国際収支統計	292
2. 国際収支統計と国民経済計算の関係	296
3. 対外資産負債残高表	297
4. 国際収支統計の記載事例	297

## 第11章 為替レートの決定理論

[ 1 ] 為替制度と為替レートの種類	302
1. 為替相場制	302
2. 為替レートの種類	305
3. 金利裁定理論	310
[ 2 ] 為替レートの決定理論	314
1. 為替レートの決定理論	314
2. アセット・アプローチ	314
3. オーバーシュooting・モデル	317
4. マネタリー・アプローチ	318
5. 相対的購買力平価説の弱点	318
6. 外国証券への投資リターンとリスク	320

## 第12章 国際マクロ経済学

[ 1 ] 経常収支の均衡	324
1. 経常収支の調整	324
2. 異時店間のマクロ経済学	327
3. 双子の赤字	329
[ 2 ] マンデル＝フレミング・モデル	330
1. 国際収支とBP曲線	330
2. マンデル＝フレミング・モデル	332
3. 2国間モデル	339

[ 3 ] 介入政策とその有効性 .....	340
1 . 不胎化政策	340
2 . 非不胎化介入	340
3 . 不胎化介入と日銀のB/Sの例	341
4 . 不胎化介入の有効性	343

## 補 章 ミ ク ロ 経 済 学

[ 1 ] 消費者理論 .....	346
1 . 消費者の行動原理	346
2 . 効用理論	346
3 . 予算制約線	349
4 . 最適消費量の決定	350
5 . 価格変化の効果	351
[ 2 ] 生産者理論 .....	354
1 . 生産関数	354
2 . 費用曲線	356
3 . 収入関数	358
4 . 最適生産量の決定	359
[ 3 ] 市場均衡と余剰分析 .....	360
1 . 完全競争市場と市場均衡	360
2 . 市場均衡と余剰分析	362
3 . 独占市場	364
4 . 市場の失敗	366